

DNS Update

～ドメイン名全般～

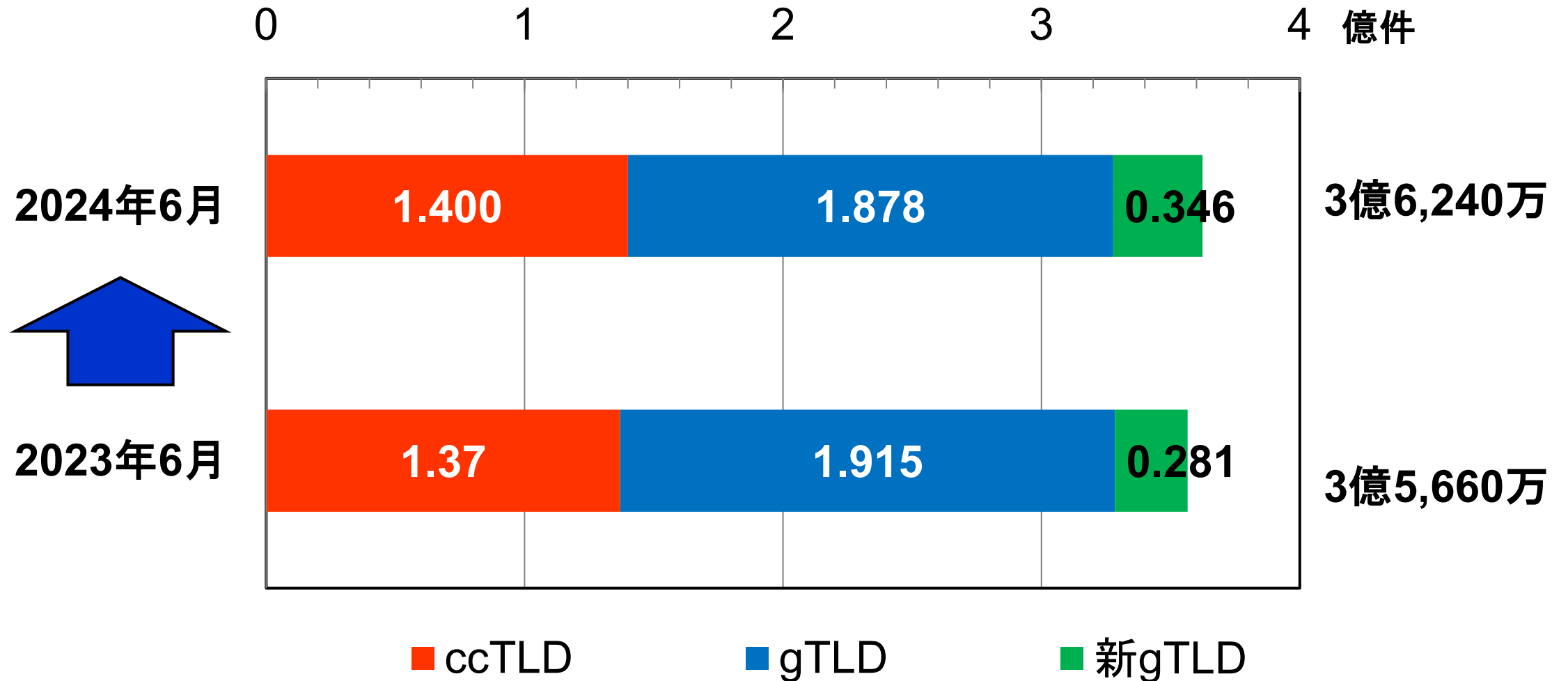
2024年11月26日(火)

Internet Week 2024 DNS DAY

高松百合(JPRS)

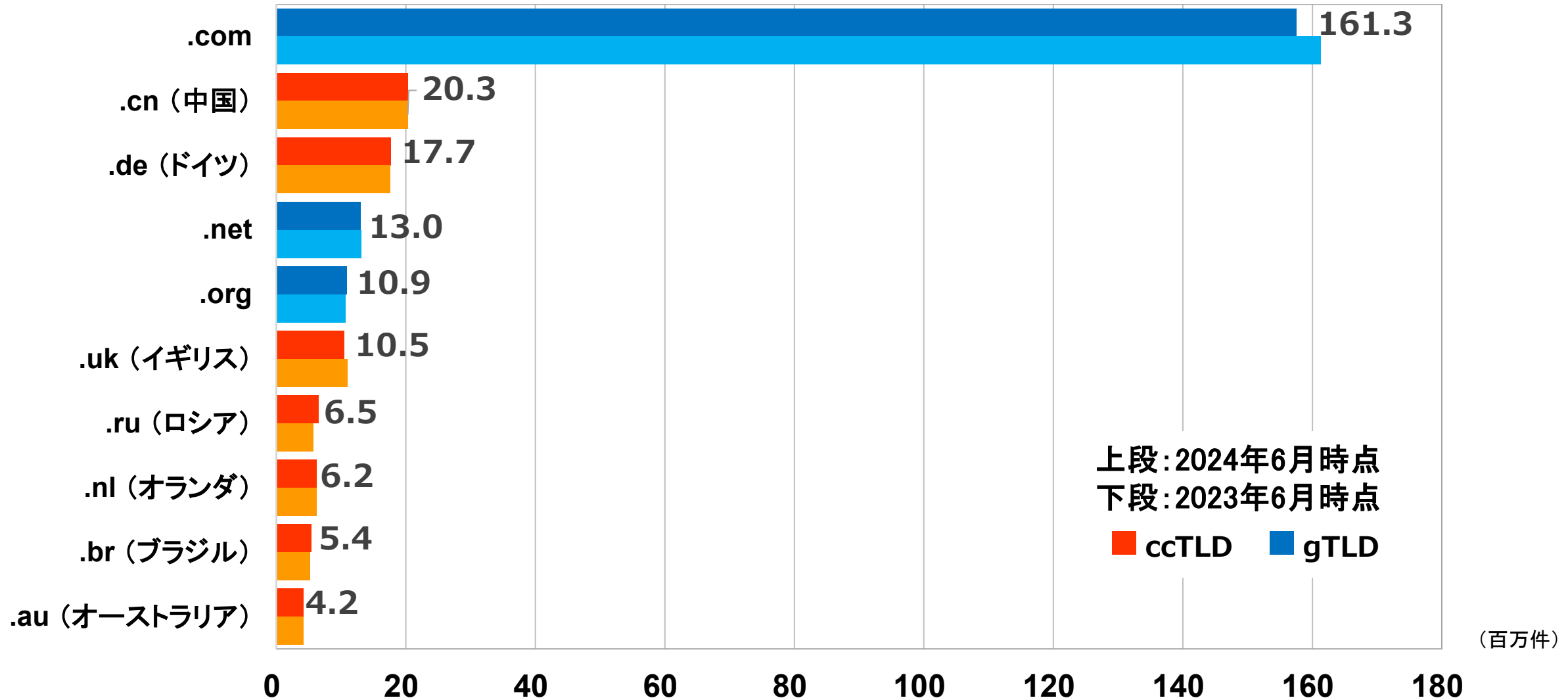
TLD全体の状況

全TLDでのドメイン名数



「Verisign Domain Name Industry Brief<https://www.verisign.com/en_US/domain-names/dnib/index.xhtml>」より

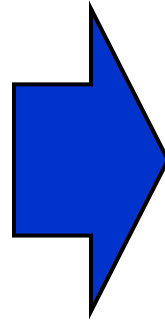
登録数の多いTLD



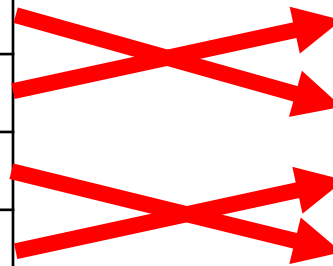
「Verisign Domain Name Industry Brief< https://www.verisign.com/en_US/domain-names/dnib/index.xhtml>」より

登録数の多いTLD

順位	TLD	件数(百万件)
1	.com	161.3
2	.cn(中国)	20.3
3	.de(ドイツ)	17.6
4	.net	13.1
5	.uk(イギリス)	11.0
6	.org	10.7
7	.nl(オランダ)	6.2
8	.ru(ロシア)	5.7
9	.br(ブラジル)	5.2
10	.au	4.2



順位	TLD	件数(百万件)
1	.com	157.6
2	.cn(中国)	20.3
3	.de(ドイツ)	17.7
4	.net	13.0
5	.org	10.9
6	.uk(イギリス)	10.5
7	.ru(ロシア)	6.5
8	.nl(オランダ)	6.2
9	.br(ブラジル)	5.4
10	.au	4.2

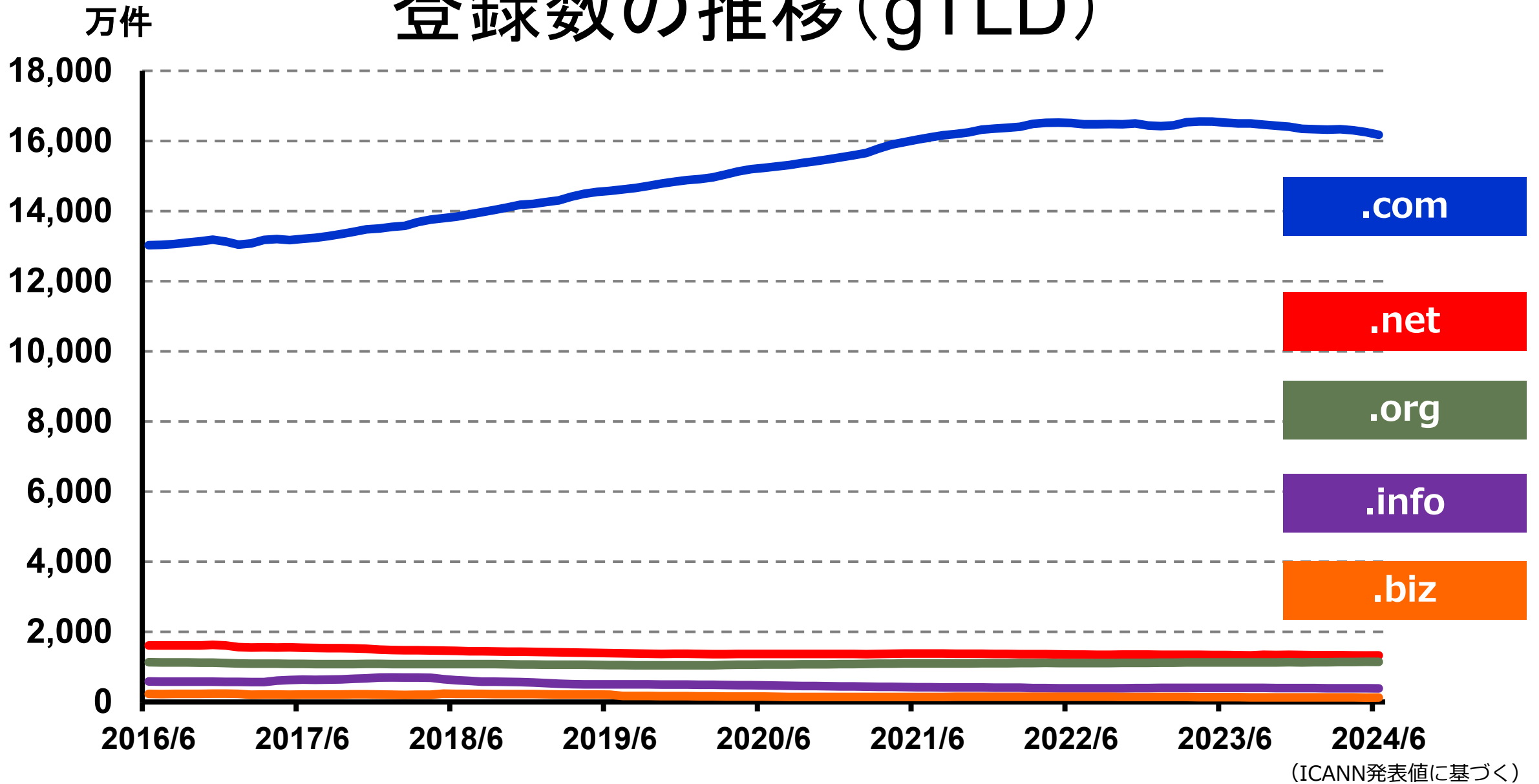


2023年6月

2024年6月

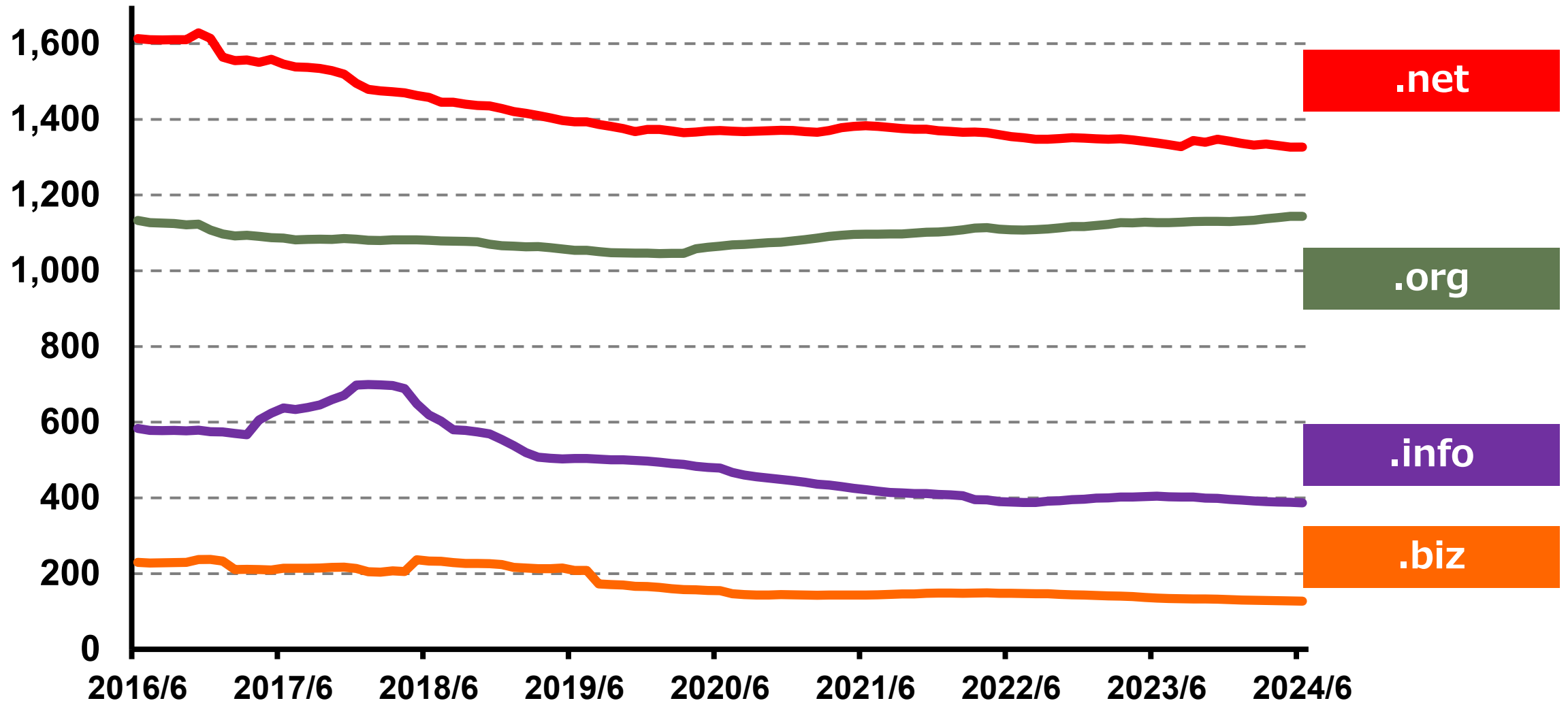
「Verisign Domain Name Industry Brief< https://www.verisign.com/en_US/domain-names/dnib/index.xhtml >」より

登録数の推移 (gTLD)



登録数の推移 (gTLD/.com以外)

万件



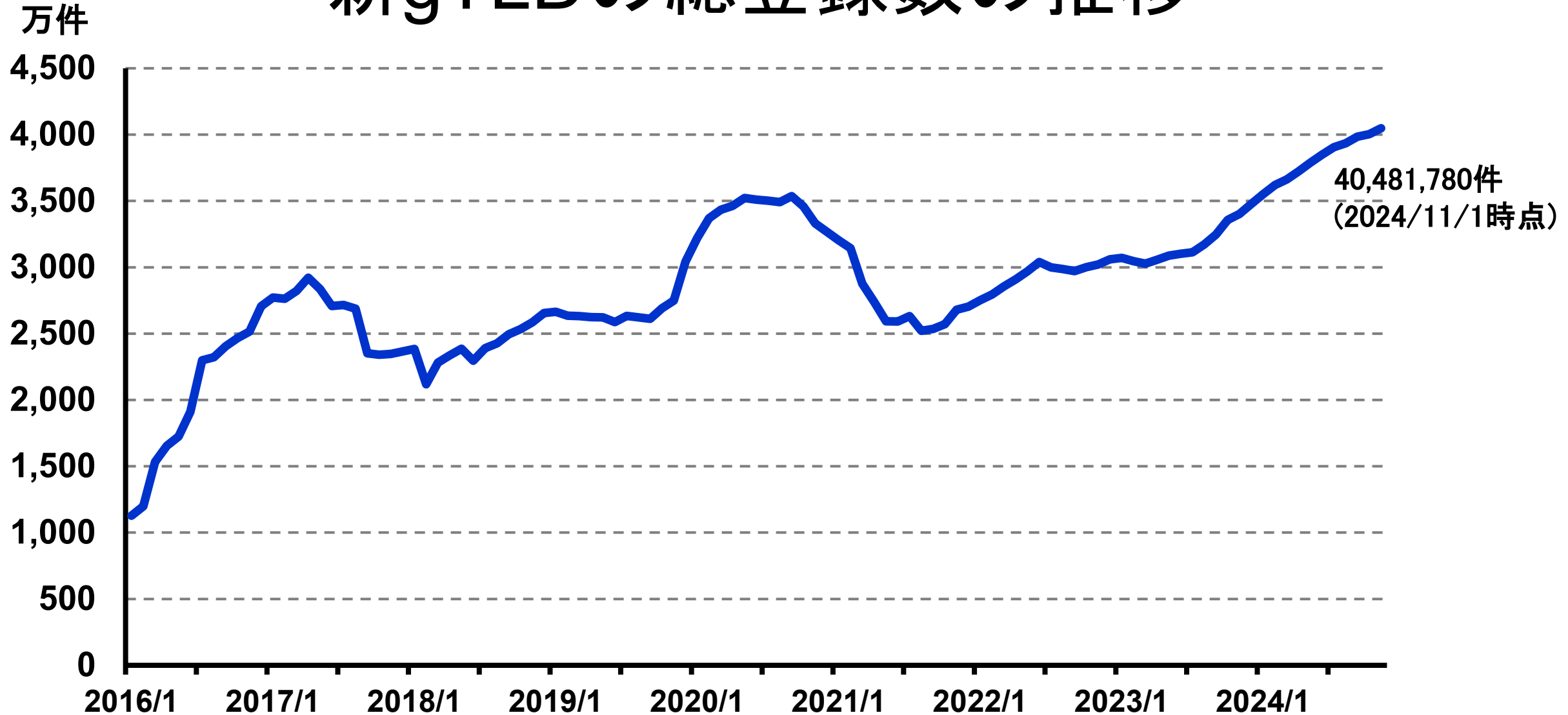
(ICANN発表値に基づく)

新gTLDの状況

新gTLDとは？

- ICANNはこれまでに、gTLDの追加を3回実施
 - 2000年
 - .aero、.biz、.coop、.info、.museum、.name、.pro
 - 2003年
 - .asia、.cat、.jobs、.mobi、.post、.tel、.travel、.xxx
 - 2012年
 - 追加数に上限を設けない形で実施され、1,200以上のgTLDが追加
- 2012年の募集で増えたものが「新gTLD」と呼ばれている
 - 追加募集を前提にICANNの場で検討されている

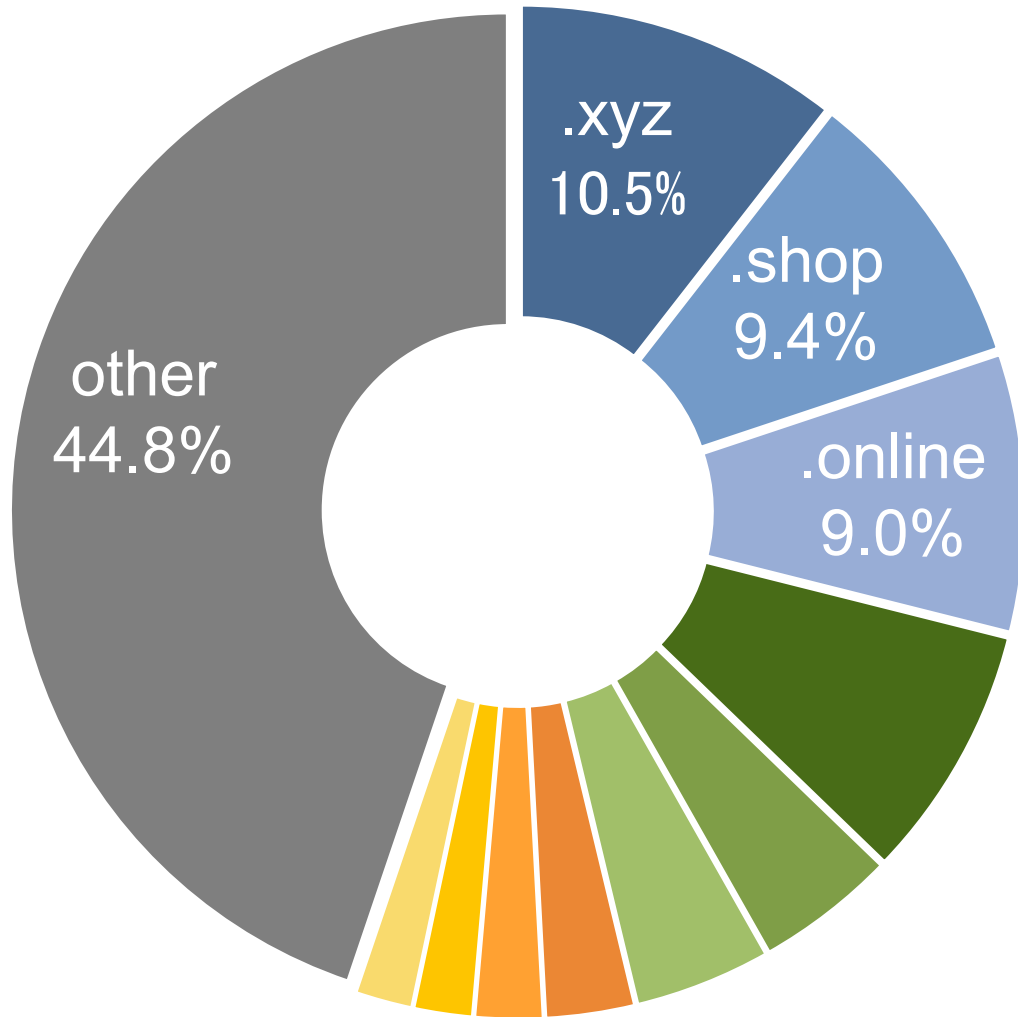
新gTLDの総登録数の推移



<<https://ntldstats.com/>> より

新gTLD登録数の内訳

(2024年11月12日現在)



	TLD	Domains	Share %	昨年の順位
● 1.	.xyz	4,283,636	10.5%	1位 →
● 2.	.shop	3,804,928	9.4%	4位 ↑
● 3.	.online	3,677,944	9.0%	2位 ↓
● 4.	.top	3,375,267	8.3%	3位 ↓
● 5.	.site	1,861,587	4.6%	5位 →
● 6.	.store	1,808,420	4.5%	6位 →
● 7.	.vip	1,183,840	2.9%	8位 ↑
● 8.	.sbs	906,036	2.2%	- ↑
● 9.	.bond	785,415	1.9%	- ↑
● 10.	.app	763,212	1.8%	9位 ↓

<<https://ntldstats.com/>>より

gTLD追加までのステップ

- ・ 次回募集に向け以下6ステップで検討を進めている
 1. ICANN GNSO* におけるポリシーの策定
 2. ICANN理事会における意思決定(事務局に検討を指示)
 3. ICANN事務局における設計・実施に向けた検討
 4. ICANN理事会における結果の評価・採択の判断
 5. ICANN事務局におけるスケジュール・手順の作成・公開
 6. gTLDの次回募集の開始
- ・ 現在、ICANN事務局において**ステップ5**の作業が進行中

* GNSO: ICANNの支持組織の一つ。gTLD関連のポリシー案を策定し、ICANN理事会に勧告する。

募集開始時期の見通し

- ICANN事務局は、申請受付開始までに**3年かかる**と見込んでいることを2023年に発表
 - ステップ5の成果である申請者ガイドブック(AGB)の完成が**2025年5月**
 - AGB: Applicant Guidebook
gTLDのレジストリになることを希望する申請者向けに、プログラムの内容を詳細に記述した文書
2012年当時のAGB < <https://newgtlds.icann.org/en/applicants/agb> >
 - ステップ6の申請受付開始が**2026年4月**

審査料の見通し

- ICANN事務局は2024年9月25日に、次回募集の1TLDあたりの審査料 (Evaluation Fee) を「**227,000米ドル(日本円で約3,500万円*) + 場合により追加審査料**」とする見込みである旨を発表 * 1米ドル=155円換算
 - 前回募集時(2012年)の申請料 (Application Fee) 185,000米ドル (日本円で約2,870万円*)

New gTLD Program: Next Round gTLD

<<https://community.icann.org/download/attachments/238617519/gTLD%20evaluation%20fee%20-%20FAQs%20-%20version%202024%20September%202024.pdf?version=1&modificationDate=1727275865000&api=v2>>」より

- 正式な審査料は、2025年5月に完成予定の**申請者ガイドブック(AGB)**に掲載

その他トピックス

① gTLDのレジストリ・レジストラにおける DNS Abuse対応義務の明文化

DNS Abuseとは？

- **明確な範囲・統一見解は存在しない**
 - DNSの利用やドメイン名の登録手続きに関連した悪用行為に含まれる範囲は大変広く、どこまでの行為がDNS Abuseに該当するのかについては、まだコミュニティでの統一した見解が示されるには至っていません。(*)
- ICANNは、DNS Abuseを、**DNSに関連する限りにおけるマルウェア、ボットネット、フィッシング、ファームウェア及びスパム(DNS Abuseの配信メカニズムとして機能する場合)の5つと定義**

* JPNIC: インターネット用語1分解説～DNS Abuseとは～
<<https://www.nic.ad.jp/ja/basics/terms/dns-abuse.html>>

何が起きた？

- 2024年4月5日、DNS Abuseへの対応に関するgTLDレジストリ／レジストラの義務事項が、ICANNとの契約上、明文化された

	RA(レジストリ契約)	RAA(レジストラ認定契約)
概要	<ul style="list-style-type: none"> 正式名称は Registry Agreement gTLDレジストリとなるための契約で、ICANNとgTLDレジストリとの間で締結 	<ul style="list-style-type: none"> 正式名称は Registrar Accreditation Agreement ICANNが認定するgTLDレジストラとなるための契約で、ICANNとgTLDレジストラとの間で締結

- 明文化された義務事項は2点

- DNS Abuseの通報者に対し、通報を受領した旨の通知を出すこと
- 管理しているドメイン名がDNS Abuseに利用されている証拠がある場合、速やかに必要な対策を講じること

	レジストリ	レジストラ
対策	<ul style="list-style-type: none"> ドメイン名を管理しているレジストラへの通報 レジストリの判断により、レジストリが直接対応（ドメイン名の登録の抹消など） 	<ul style="list-style-type: none"> 当該のDNS Abuseを停止するために必要な合理的な措置を行う

② gTLDレジストリの提供料金に関する動向

gTLD提供料金に関する最近の動向

- セキュリティと安定性の維持・強化や世界的なインフレ傾向などを理由に、**レジストラ提供料金を値上げするgTLDレジストリが増加**

gTLD	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
.biz	✓	✓			✓		✓
.com				✓	✓	✓	✓
.info			✓	✓	✓	✓	✓
.mobi	✓		✓	✓	✓	✓	✓
.net	✓					✓	✓

主なgTLDの提供料金値上げの状況（JPRS調べ、✓が値上げを実施した年）

.com、.netに関する動向

- .com、.netは米国政府とVerisignの契約が改訂されて料金の上限が撤廃されて以降、**値上げ幅をほぼ上限まで使った料金改訂**を毎年実施
 - .comは2020年、.netは2022年に料金の上限が撤廃された
- その結果、2011年の料金と比較して.comは**約1.4倍**、.netは**2倍以上**になり、.comと.netの料金が逆転する状況となった

jPRS